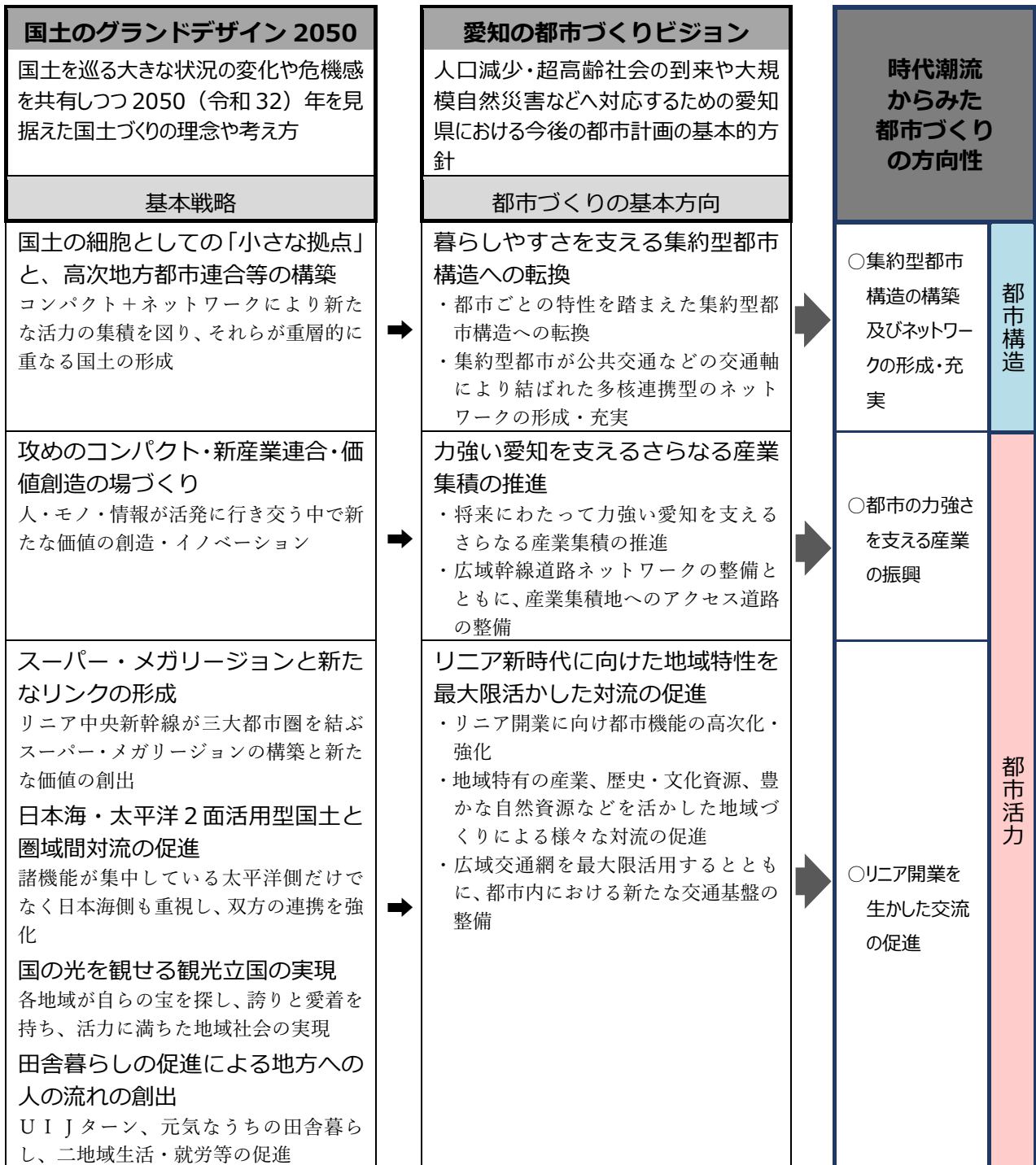
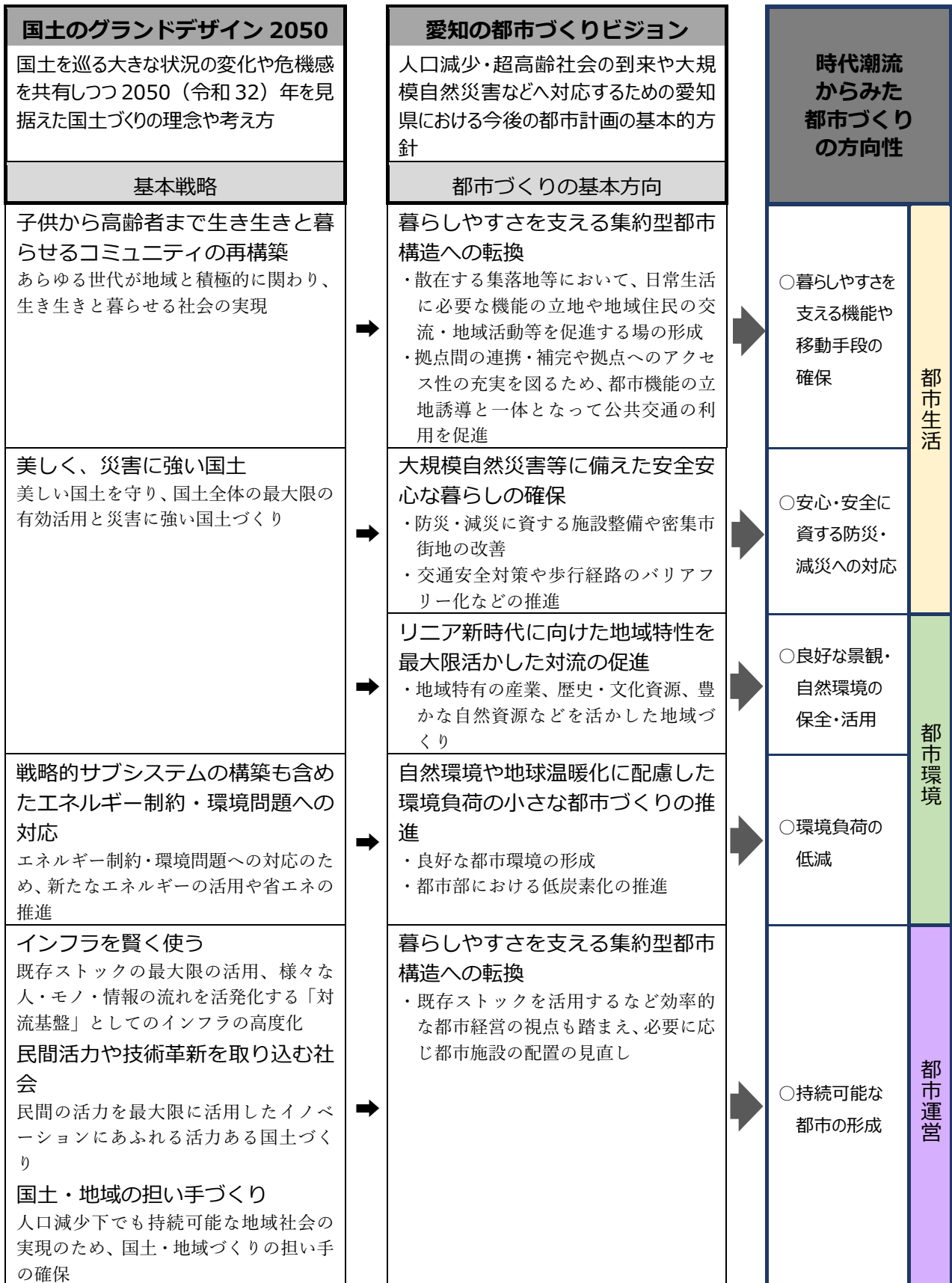


第3章 稲沢市が抱える課題の整理

1. 時代潮流からみた都市づくりの方向性の整理

ここでは、国が今後の国土づくりの基本的な考え方を示す『国土のグランドデザイン 2050』及び愛知県が都市計画の基本的方針を示す『愛知の都市づくりビジョン』を踏まえることで、本市における時代潮流からみた都市づくりの方向性を整理します。





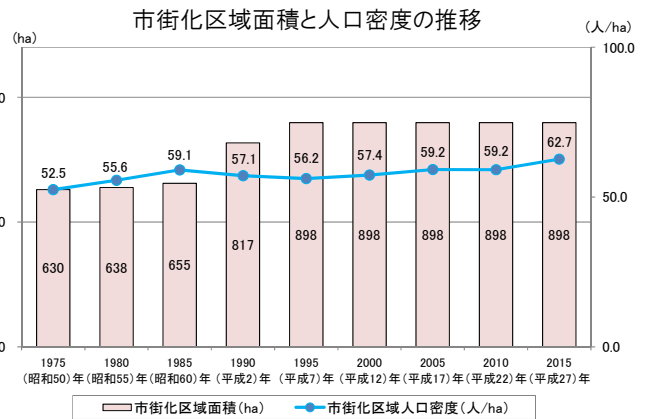
2. 基本的課題の整理

時代潮流からみた都市づくりの方向性の整理を踏まえ、5つの視点（都市構造、都市活力、都市生活、都市環境、都市運営）から、本市における現況の強み及び弱みを整理した上で、本市の基本的課題を整理します。

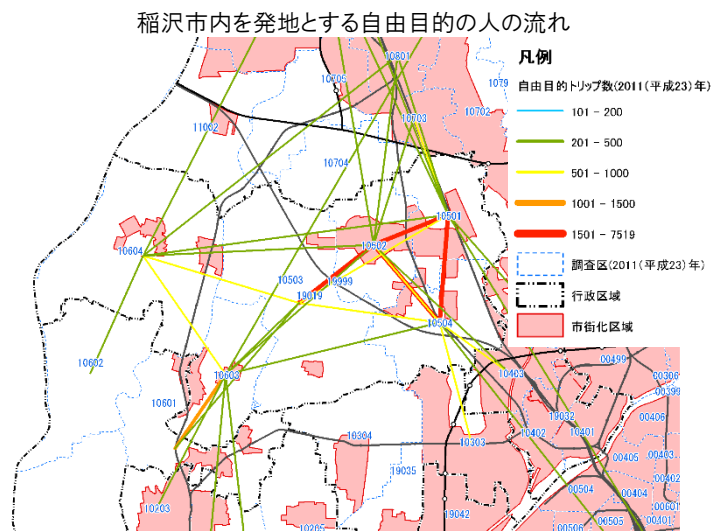
視点：**都市構造** ～集約型都市構造の構築及びネットワークの形成・充実～

【強み】

- 市街化区域の人口密度は、1975(昭和 50)年の 52.5 人/ha から、2015(平成 27)年には 62.7 人/ha へと増加し、人口集積が進んでいます。
- 市内には3路線の鉄道が南北方向に縦断し、11 駅が設置されています。
- コミュニティバスは名鉄国府宮駅、JR稲沢駅と市役所を中心に路線が設定され、市民の移動を支えています。
- 最も乗降客数が多い名鉄国府宮駅においては、自動車、バス、二輪車の利用が多く、広い駅勢圏を有しています。
- 東部では地区相互で自由目的の人の流れの結びつきが強く、西部では名鉄国府宮駅や市民病院、市役所、大規模商業施設が立地する市東部との人の流れの結びつきが強い傾向にあります。
- 本市は、南北方向に整備された幹線道路により名古屋市や一宮市へのアクセス利便性が高い広域交通体系を形成しています。また、JR稲沢駅から市役所間を結ぶ区間で交通量が多く、市内の東西軸を形成しています。



出典：愛知県都市計画基礎調査

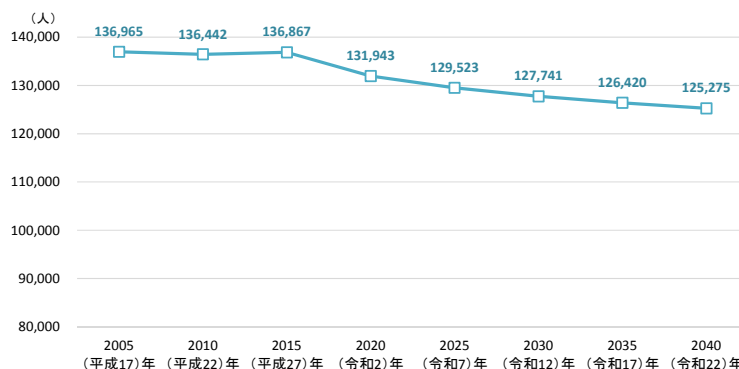


出典：2011(平成 23)年パーソントリップ調査

【弱み】

- 土地区画整理事業完了から長期間が経過した名鉄国府宮駅周辺において、青空駐車場などの低未利用地が点在し、有効な土地利用が図られていない状況にあります。
- 本市の人口は今後減少する見込みであり、人口減少に歯止めをかける必要がありますが、市街化区域内の人口密度は高く、まとまりのある低未利用地も少ないため、まとまった住宅地の確保が厳しい状況にあります。
- 高齢化は今後さらに加速し、2040（令和22）年には高齢化率が34.3%にのぼると見込んでいます。
- 名鉄国府宮駅及びJR稲沢駅の周辺において人口密度が高い一方、人口が減少している地区がみられます。
- 商業系の土地利用の集積を想定している近隣商業地域及び商業地域の一部において、商業系の土地利用が進んでいません。

稲沢市の将来人口の見通し

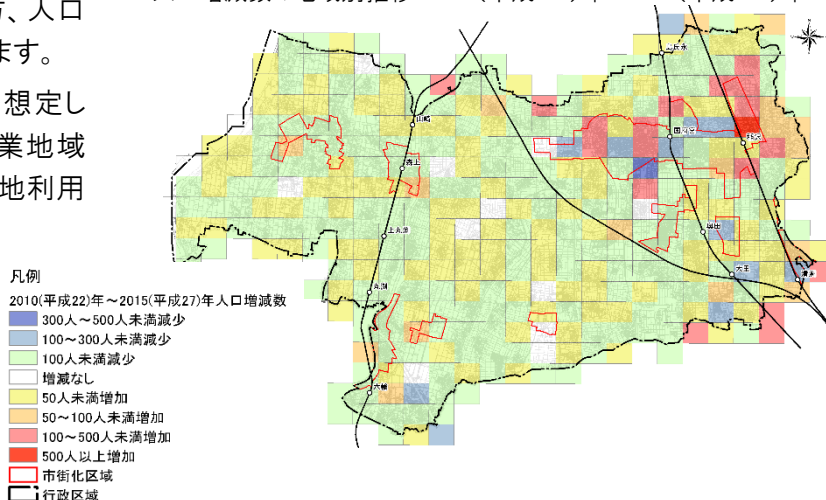


※将来人口推計結果は、以下により推計

- ・結婚や子育てに係る市民の意識の変化や子育て支援環境の整備などにより出生率が改善する（出生率が2020（令和2）年で1.60、2030（令和12）年で1.80、2040（令和22）年で2.07）
- ・雇用や宅地の創出によって人の定着と流入が促される（純移動率が5年ごとに+0.5ポイント）

出典：稲沢市ステージアッププラン

人口増減数の地域別推移 2010(平成22)年～2015(平成27)年



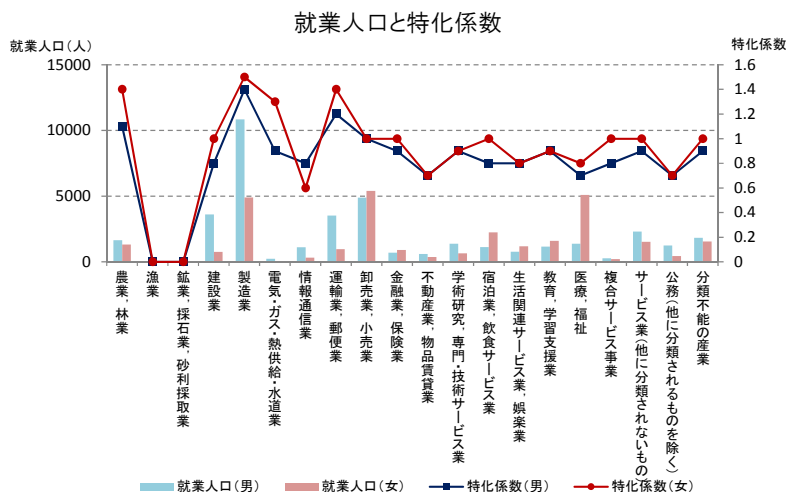
出典：国勢調査

【基本的課題】

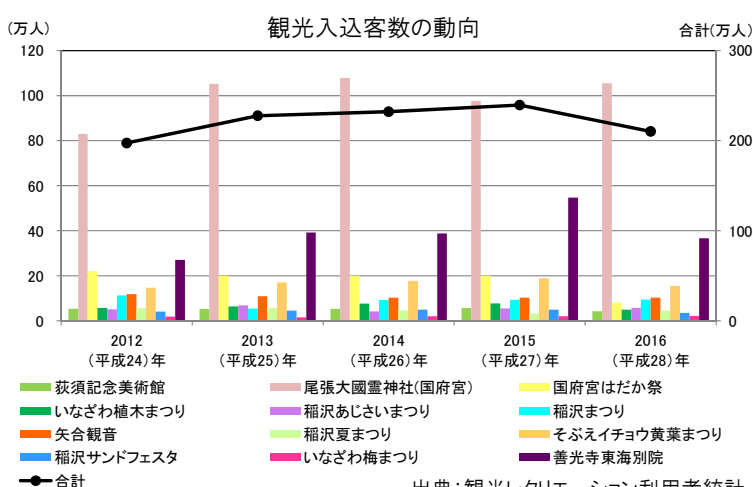
- 将来の人口減少・高齢化に対応した都市構造の構築
- 中心市街地（名鉄国府宮駅及びJR稲沢駅周辺）の活性化・にぎわい創出
- 人口減少に歯止めをかける計画的な住居系新市街地の形成
- 市民の移動を支える公共交通や道路の交通ネットワーク構築

【強み】

- 本市は名古屋駅からのアクセス利便性の高さや広域交通条件に恵まれた立地特性を有しています。
 - 本市は製造業に従事する人口が多く、機械器具、プラスチック、エレクトロニクスなど広い範囲の製造業が中心となっています。
 - 本市の農業の特色として植木産業があげられ、緑化木の出荷本数は県内の約8割を占めています。
 - 市内には尾張大國霊神社(国府宮)をはじめとする歴史・文化に関わるものや、木曾川やそぶえイチョウ黄葉まつりといった自然に関わるものなど、観光資源が分布しています。
- 観光入込客数は、2013(平成25)年以降、年間200万人を超える水準で推移し、このうち尾張大國霊神社(国府宮)の観光入込客数が概ね100万人と突出しています。



出典：2015(平成27)年国勢調査

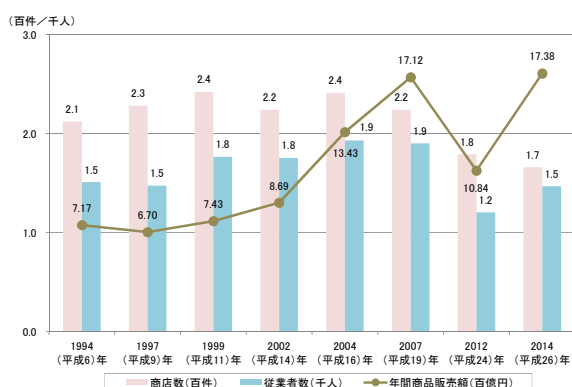


出典：観光レクリエーション利用者統計

【弱み】

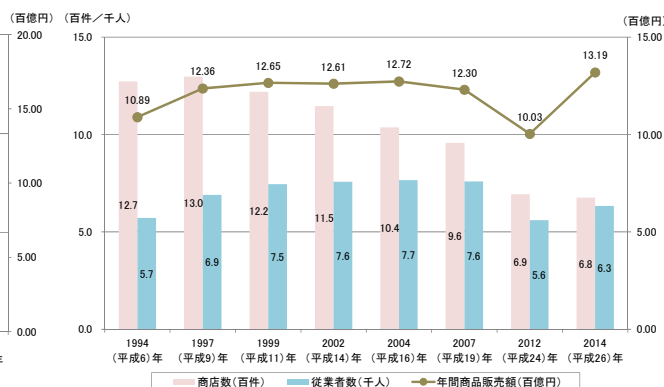
- まとまりのある低未利用地が少ないため、市街化区域内における新たな産業用地の受け皿が不足している状況にあります。
- 卸売業、小売業ともに商店数が減少傾向にあります。

商業(卸売業)の動向(従業者4人以上)



出典：商業統計調査(2012(平成24)年は経済センサス)

商業(小売業)の動向(従業者4人以上)



出典：商業統計調査(2012(平成24)年は経済センサス)

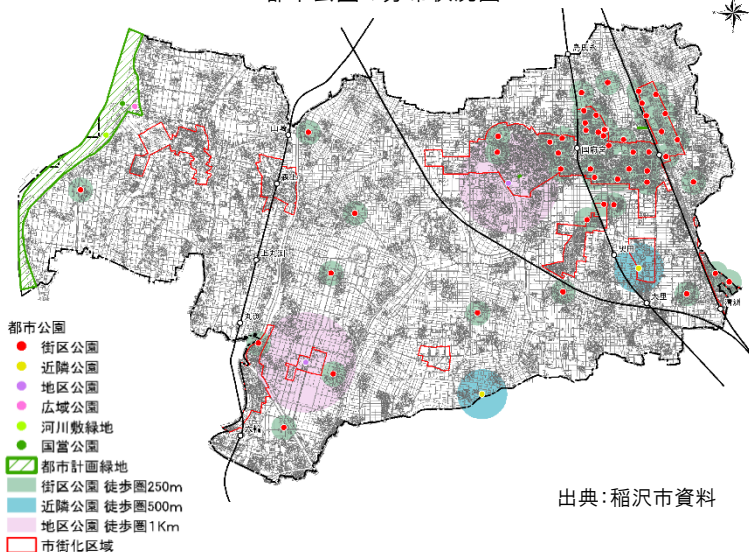
【基本的課題】

- 産業振興や、さらなる産業立地の受け皿の確保
- 本市の特色である植木産業をはじめとする農業の振興
- 本市に分布する観光資源を生かした観光の振興

【強み】

- 下水道は市域全体で 965.6ha (2019(平成 31)年 3 月末時点)が供用開始されています。
- 東部における市街化区域内においては街区公園の整備が進んでいます。
- 市内には3路線の鉄道が南北方向に縦断し、11 駅が設置されており、コミュニティバスは名鉄国府宮駅、JR稲沢駅と市役所を中心に路線が設定されています。

都市公園の分布状況図

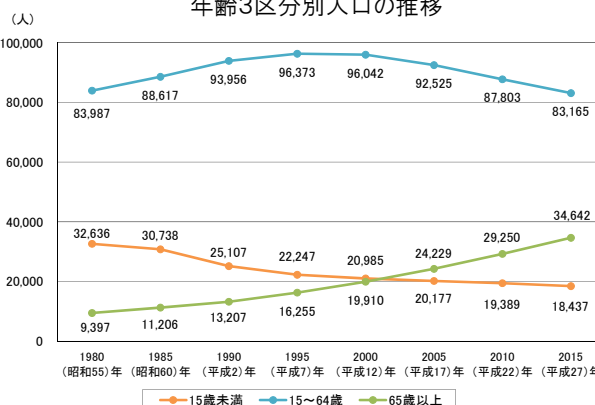


出典：稲沢市資料

【弱み】

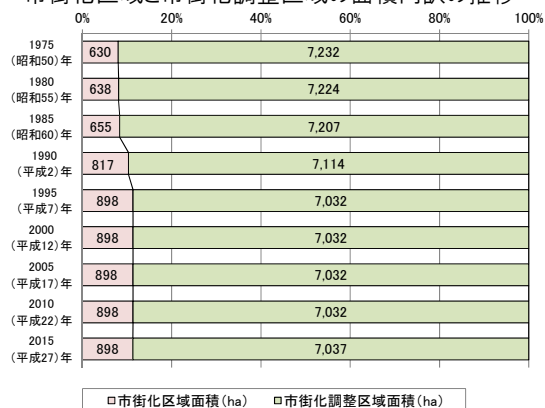
- 年少人口、生産年齢人口が減少している一方、高齢者人口は増加を続けるとともに高齢化率も上昇しています。
- 市民の約6割が居住する市街化調整区域で高齢化が進み、日常の生活利便施設や医療・福祉施設など、徒歩による利用が困難な地域もみられます。
- 西部を中心に木曾川及び日光川の浸水災害が想定されています。また、市街地では局地的集中豪雨による浸水被害がみられます。

年齢3区分別人口の推移



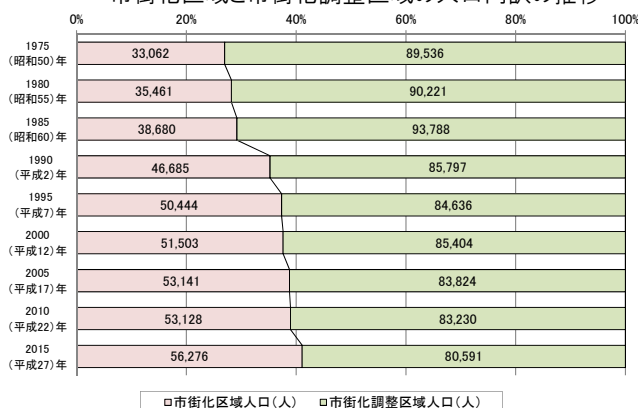
出典：国勢調査

市街化区域と市街化調整区域の面積内訳の推移



出典：愛知県都市計画基礎調査

市街化区域と市街化調整区域の人口内訳の推移



出典：愛知県都市計画基礎調査

【基本的課題】

- 市民の約6割が居住し、高齢化が進行する市街化調整区域における暮らしやすさの維持
- 若者世代の転入を呼び込む市街地の形成
- 想定される災害リスクを踏まえた災害に強い都市の形成

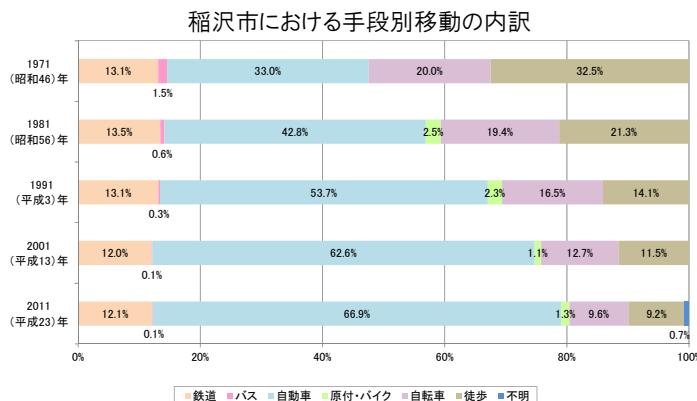
視点：都市環境 ～良好な景観、自然環境の保全・活用、環境負荷の低減～

【強み】

- 市域西端の木曾川に面して、サリオパーク祖父江の水辺空間を活用したレクリエーションが行われています。
- 地域の資源として、境内林が残る社寺が市全域に分布しています。

【弱み】

- 過去 40 年間で徒歩や自転車利用の割合が大きく減少している一方、自動車利用が増加しており、車への依存度が高まっています。
- 農地などの自然的土地利用が減少傾向となっています。



【基本的課題】

出典：2011(平成23)年パーソントリップ調査

- 社寺林、農地や木曾川などの豊かな自然環境の保全
- 公共交通や自転車の利用促進による環境負荷の低減

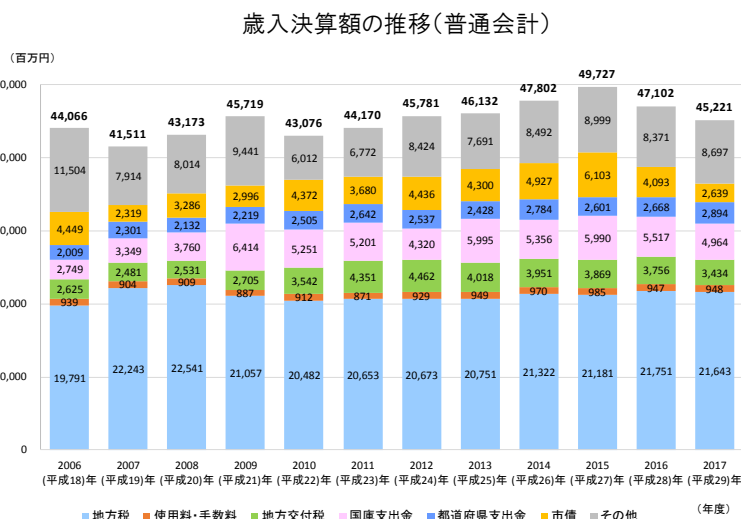
視点：都市運営 ～持続可能な都市の形成～

【強み】

- 市内には3路線の鉄道が南北方向に縦断し、11 駅が設置されており、都市計画道路、都市公園、下水道などの整備が順次進められています。

【弱み】

- 財政力指数は概ね横ばいの状況にあり、2017(平成29)年時点で0.915と1を下回っています。
- 市税収入は近年概ね横ばい状況にありますが、合併算定替の段階的な縮減により地方交付税の減収が見込まれるのに対し、義務的経費は徐々に増加していく見通しであり、今後財政構造の硬直化が進んでいく懸念があります。
- 道路、橋りょうなどの都市基盤施設と公共建築物の維持・更新に関して、今後年間約 36 億円の財源不足が予測されています。



出典：地方財政状況調査

【基本的課題】

- 既存ストックを最大限生かしたインフラ施設の長寿命化などによるコスト削減
- 必要な公共サービスの維持と施設量の適正化